

第6回

ゼロヨンGP in FISCO 外車部門&特別参加

遂に出たゼロヨン

外車部門
1位
デ・トマソ・パンテラ 12.54秒

ゲリー・A. 光永(東京都)



最初のページでも触れたように、今回のゼロヨンGPでは国産車のナンバー付きで優勝を争った。このページのマシンはその範囲からはずれた異色マシンである。フェラーリ308と、雨宮RX-7ターボが欠場し、観客の興味は優勝経験者の光永氏のパンテラとドラッグ専用マシンのVWビートルの一番時計争いに注がれた。

3年前の第3回GPで優勝したV8エンジン搭載のZのオーナーがこの人。12.50秒というレコードホルダーでもあった。その光永氏が今回はパンテラで挑戦してきた。エンジンはノーマルの5.7ℓから、アメリカのロッシ・

チューンの7.7ℓV8に換装し、推定パワーは500psという。ファイバーのボンネットからアルミのドアまで軽量化も徹底している。ホイール・タイヤはゴッティとP7、前8Jに225、後10Jに285のコンビ。



V8 Zは有名になりすぎて走りにくくなったよ。それで1年半かけてこのクルマ作ったのよ
(G.A.光永・36才・会社員)

キャブはホーリーでもおそろく最大の1150サイズだ

セッティングでゆうべは寝れなかったけど、ゼロヨンのためならへっちゃらさ(須藤秀明・21才・無職)

外車部門
2位
ポンティアックF400 15.81秒

須藤秀明(山梨県)



7ℓのV8エンジンを積み、キャブはホーリーの750、フッカーのタコ足にスラッシュのマフラーとアメ車の典型的なチューニングがしてある。ショックはガブリエルで、ブレーカーの8JJ×14と10JJ×15に、グッドリッチの245/50と、295/50というタイヤはさすがにワイドだ。

2.2ℓフラット6の73年式ボルシェはほぼ完ペキにノーマル。前後ショックにビルシュタインを入れ、BBSの前6.5J×15、後7.5J×15のホイールとビレリーP6前205、後225のタイヤと、いう仕様で臨んだ。15.9秒のタイムは、ノーマルということを考えればやっぱり凄いといえるだろう。



ボルシェならノーマルでも通用するかなと思ってたけど、やっぱり甘かったね(カ石司朗・24才・自動車販売業)

外車部門
3位
ボルシェ911S 15.90秒
カ石司朗
(神奈川県)外車部門
4位
オールズモビルカトラスクーペ
17.77秒

伊藤義泰(東京都)

エンジンはトランザム用の6ℓを載せていたが、焼き付いて仕方なくノーマルの5ℓに戻している。

キャブはホーリーの650で、エーテルブロックのマニホールド、トランザム用のフッカーのタコ足、スラッシュのマフラーという仕様。タイヤはグッドリッチの265と275だ。



私のカラダも車のボディも大きさだけなら今日一番じゃないですか(伊藤義泰・30才・建設業)

